神奈川自然誌資料 (11)：153, Mar. 1990

神奈川県で記録された オーストラリアセイタカシギ

内田英樹・浜口哲一

Hideki UCHIDA & Tetsuichi HAMAGUCHI: Notes on Australian Stilt (*Himantopus leucocephalus*) Found in Kanagawa Prefecture

オーストラリアセイタカシギ (*Himantopus leucocephalus*)は，セイタカシギ(*Himantopus himantopus*)に近縁で頭部の白と黒の模様に特徴のある種で，しばしばセイタカシギの亜種として扱われる。H. HAYMAN 他（1986）によれば，オーストラリア，ニュージーランドからニューギニアで繁殖し，冬期はフィリピンにかけての島々に渡るものがあるという。

日本では1986年10月10日に茨城県波崎町において，鈴木恒治氏によって撮影されたものが，初記録とされている（鈴木，1987；日本野鳥の会野鳥記録委員会，1988；日本野鳥の会野鳥記録委員会，1989)。筆者の一人内田は，この記録に先立つ1986年５月に神奈川県相模原市において，本種と考えられる個体を観察しているので，報告しておきたい。なお，本報告は現地での観察については内田が，過去の記録等については浜口が執筆した。また写真を提供された塩原昭夫氏に感謝したい。

図１　オーストラリアセイタカシギ（1986年５月29日，塩原昭夫氏撮影）

観察地は相模原市当麻の昭和橋の下流側の相模川で，初めて観察したのは1986年５月24日午前７時であった。この個体は写真で見られるように，後頭部がくっきりと黒く，白い顔とのコントラストが鮮やかであった。このパターンはオーストラリアセイタカシギの♂成鳥によく一致している。くちばしは黒く先がわずかに上に反っており，足は鮮やかなピンク色をしていた。中州の草の生えた湿地，中州及び本流の浅瀬で採餌し，餌をとる時の動きやシャックリのような動作がコチドリによく似ていた。この個体は同所で内田及び塩原昭夫氏等によって，５月29日まで連続して観察され，５月31日には姿が見えなかった。

鈴木（1987）によると同氏は1986年６月７日にも千葉県一の宮河口で，オーストラリアセイタカシギのタイプの個体を観察されたとのことであり，出現時期からみて，相模川に現われた個体が一の宮に移動したことは十分考えられよう。また10月の波崎町の個体も写真で比較すると，羽色のパターンが非常によく似ており，これも同一個体の可能性があるかもしれない。いずれにしても，筆者の観察した例が，日本国内での初記録となるものであるが，報告が遅れたことについては，お詫びしたい。

なお，日本野鳥の会記録委員会（1988）に示された分布図は，まったく間違っている。また，同委員会（1989）では波崎町の記録を1986年９月14日としているが，鈴木（1987）を参照すれば明らかなように10月10日が正しい。こうしたケエレスミスは将来の混乱のもとにもなるので，慎重なチェックを望みたい。

文　献

HAYMAN, P., J. MARCHANT and T. PRATER, 1986. Shorebirds. 412pp. Croom Helm.

鈴木恒治，1987．セイタカシギ．野鳥，(487)：30.

日本野鳥の会野鳥記録委員会，1988．日本に舞い降りた野鳥たち．野鳥，(500)：10.

日本野鳥の会野鳥記録委員会，1989．日本初記録の野鳥．野鳥，(509)：38-43.

（内田英樹：相模原探鳥会・浜口哲一：平塚市博物館）